

第5回世界水フォーラム参加報告

平成21年3月31日

1. 開催概要

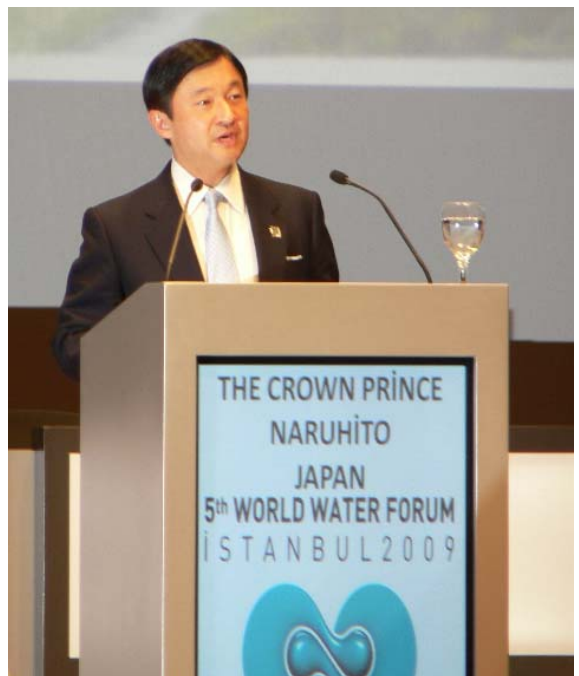
- 日時: 2009年3月16日～22日
- 場所: トルコ・イスタンブール
- テーマ: Bridging Divides for Water「水問題解決のための架け橋」
- 参加者: 192ヶ国から約3万人が参加。(事務局発表)

	3月16日(月)		3月17日(火)		3月18日(水)		3月19日(木)		3月20日(金)		3月21日(土)		3月22日(日)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
式典	開会式													閉会式
ハイレベルパネル		水と災害	資金調達		水、食料とエネルギー	衛生		気候変動への適応(地域)		気候変動への適応(関係級)				
テーマ&トピック	テーマ全体会合													
			テーマ1: 地球規模の変化と危機管理				テーマ1	テーマ1まとめ						
					テーマ2: 人間の発展の促進とミレニアム開発目標						テーマ2まとめ			
									テーマ3: 人間と環境のニーズに応えるための水資源と水供給システムの管理と保全			テーマ3まとめ		
			テーマ4: ガバナンスと管理				テーマ4	テーマ4まとめ						
			テーマ5: 資金調達						テーマ5まとめ					
地域		アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	トルコ周辺諸国	地中海諸国	アラブ諸国	アジア・太平洋						
政治プロセス	首脳級サミット	関係級会合高官級会議							関係級会合開会式	関係・国会議員・地方自治体対話	関係級円卓会議		関係級会合閉会式	
				国会議員	国会議員&地方自治体		国会議員							
				地方自治体			地方自治体							

2. 主な会合等の開催結果

(1) 皇太子殿下基調講演(3/17 8:30~9:30)

- 関東地方の水源でありながら、繰り返し水害が発生してきた利根川の治水対策等について紹介された。
- 日本人が歴史の中でいかに水問題に対応してきたか、具体事例を挙げて説明され、これらの経験を世界の水問題に役立てることができると呼びかけられた。
- その上で、「日本には『災害は忘れた頃にやってくる』ということわざがあるが、災害が発生してからでは遅すぎる。」と、水災害を防ぐための継続的な取り組みの必要性を訴えられた。



(2) 下水道関係セッション

①Session 2.1.4 "Keeping Sanitation High on the Agenda" 「衛生を主要課題に」 (3/19 14:30～16:30)

- *東京都下水道局石本係長から、水質汚濁問題を下水道を中心として解決した経験につき、技術、財政の両面の成功例として発表。
- 会場からは、東京都の下水道が、環境問題への関心の高まりなど下水道整備への大なる支持を背景に急速に普及したことなどに関心が寄せられた。
- ※自民党水の安全保障特命委員会の遠藤委員長が傍聴。



②Session 6.3.1 "How to Get to the MDGs with the Help of Professional Associations" 「いかに専門家組織の支援のもとでミレニアム開発目標を達成するか」 (3/20 8:30～13:00)

- *東京大学滝沢教授が、パネルディスカッションに登壇。
- ハード整備が中心であった日本の国際協力の中で、人材育成への協力を継続的に行うことが課題であったが、今年4月の下水道グローバルセンター(GCUS)の発足で、産官学の連携により人材育成を統一的かつ継続的に行うことが可能となることを紹介。
- さらに、各国の専門家組織とネットワークを深めていくことで、MDGsの達成に貢献していくと強調。
- 会議の中で、滝沢教授の提案したGCUSの活動内容を支持する意見があったほか、会議終了後には、GCUSとの連携を図りたいとする国々から個別の接触があった。



③Session 6.3.3"Should Investments Be Linked to Professional Associations' Backstopping?" 「専門家組織の支援に投資がなされるべきか」(3/21 8:30~10:30)

- *京都大学松井名誉教授がこれまでの日本の支援実績とその成果、今後の課題と取り組みについて発表。
- ODAについて、近年、我が国は水分野の最大のドナーであるとともに、**Capacity Building**でも多くの成功実績（タイの研修施設の設立など）を収めていることを紹介。
- 最近の取り組みとして、森元首相率いる水の安全保障機構の設立、チーム水日本の結成、その一員としてのGCUSの設立などを紹介。
- 我が国の支援実績が認められたとともに、GCUSにも多くの期待が寄せられた。



④Session 6.3.4 "The Road Less Travelled (No More?) Summing It All Up" 「これから何をなすべきか」セッションの総括 (3/21 11:00~13:00)

- 松井名誉教授が、開発途上国の支援策に対し、持続可能な資金調達や適切な人材の配置など専門家ネットワークの役割についてのパネルディスカッションに登壇。
- 「水・衛生問題の解決に向け、今後どのような行動をとるのか」との決意を問われ、改めて、「日本下水道協会として、GCUSを中心とした国際貢献活動を展開していく旨決意を述べた。
- さらに、2日間のセッションを通じて、GCUS活動の方向性が見え、自信が得られたと結論づけた。
- 議長（Paul Reiter : IWA）は、このセッションで大いなる成果が得られたとともに、今後とも会話を続け、協力を続けていくと締め括った。
- また、ここで得られた知見が広く発信されていくこととなった。



※松井名誉教授、滝沢教授、石本係長は「日本下水道協会」(JSWA)として出席。

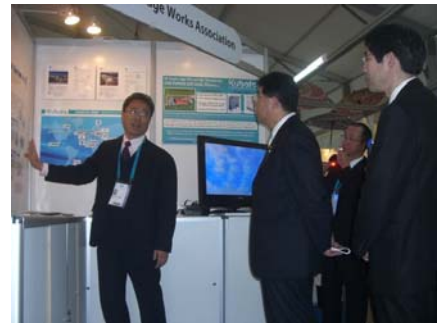
(3) 閣僚級国際会合 (3/20~22)

- 閣僚級国際会合は、20(金)~22(月)の3日間行われ、我が国からは、金子国土交通副大臣が出席。
- 最終日には、地球規模の課題(人口増加、都市化、気候変動、災害など)に向けて「水の安全保障」を達成することキーマッセージとして、世界の水問題解決に向けて取り組むべき事項をとりまとめた「閣僚声明」を採択。



(4) 水エキスポ(全日程)

- 8,000㎡の会場に19カ国、220団体が出展。
- 日本パビリオンは、216㎡のスペースに20団体が出展。
- 下水道関係では、日本下水道協会、下水道関連企業等により、GCUSや膜処理技術、管路診断等に関する展示を開催。
- ※3月17日には、皇太子殿下がご視察(森元首相が随行)。3月19日には、遠藤委員長、金子国土交通副大臣が視察。皇太子殿下は、「素晴らしい日本の水技術で世界の水問題の解決に貢献して頂きたいと思います。」と述べられた。



(5) 今後の主な関連行事(予定)

- 平成22年6月: 第2回アジア・太平洋水サミット(シンガポール)
- 平成24年3月: 第6回世界水フォーラム(開催地未定)

(6) その他

本フォーラムの一環として、「子供水フォーラム」が開催されるなど、子供や学生の参加が多く見られた。

